

## 講義要綱

【授業科目名】人体の構造と機能Ⅲ(解剖学Ⅲ)	【分野】専門基礎	【学年】2年	【学期】前・後期
【学科】専科	【講師名】高山 智仁	【授業コマ数】30	【授業時間数】60
【一般目標:GIO】 人体の構造を頭に描くことができる。			
【行動目標・到達目標:SBOS】 内臓及び感覚器の構造を人に説明でき、その重要性を理解させる。			
【 授 業 計 画 】			
< 前 期 >		< 後 期 >	
1. 神経系の復習① 2. 神経系の復習② 3. 神経系の復習③ 4. 神経系の復習④ 5. 内臓系総論、中腔性臓器と実質性臓器 6. 口腔、歯、口蓋 7. 舌、唾液腺、咽頭、食道 8. 胃、小腸、大腸 9. 肝臓、胆嚢、膵臓 10. 消化器系の復習① 11. 消化器系の復習② 12. 鼻腔、咽頭、喉頭 13. 気管、気管支、肺 14. 呼吸器系の復習 15. 試験解説および総復習		1. 腎臓 2. 尿管、膀胱、尿道 3. 泌尿器系の復習 4. 男性生殖器① 5. 男性生殖器② 6. 女性生殖器① 7. 女性生殖器② 8. 生殖器系の復習 9. 下垂体、松果体、甲状腺、上皮小体 10. 副腎、膵臓、内分泌系の復習 11. 視覚器 12. 平衡聴覚器 13. 味覚器、嗅覚器、皮膚 14. 感覚器系の復習 15. 試験解説および総復習	
【テキスト】 「解剖学」(医歯薬出版社)河野邦雄ほか			
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験と出席率を加味して評価を行う。			
【授業実施上の留意点】 授業は講義形式にて行う。教科書、配布資料の通読を基本とする。授業内容を理解するにあたり、知識に乏しい者はその都度該当教科の復習を要する。			

## 講義要綱

【授業科目名】人体の構造と機能Ⅳ(運動学)	【分野】専門基礎	【学年】2年	【学期】前・後期
【学科】専科	【講師名】手島 梢	【授業コマ数】30	【授業時間数】60
【単位数】2			
【一般目標:GIO】 運動学の基礎の一つである、解剖学の筋系のを理解する。 身体の運動を力学、身体各部の構造、機能から学習し、運動学的機能を理解する。			
【行動目標・到達目標:SBOs】 力学、解剖学、生理学等を応用し、運動学の基礎を理解、説明できる。 身体各部位の運動学的機能から動作を理解することができる。 疾患と関連して考えることができる。			
【 授 業 計 画 】			
< 前 期 >		< 後 期 >	
1. 関節の運動 2. 上肢の靭帯 3. 下肢の靭帯 4. 上肢の筋① 5. 上肢の筋② 6. 上肢の筋③ 7. 上肢の筋④ 8. 体幹の筋① 9. 体幹の筋② 10 体幹の筋③ 11 下肢の筋① 12 下肢の筋② 13 下肢の筋③ 14 下肢の筋④ 15 試験解説		1. 関節運動と力学 2. 姿勢 3. 伝導路、反射と随意運動① 4. 伝導路、反射と随意運動② 5. 体幹、脊柱の機能 6. 正常歩行と異常歩行① 7. 正常歩行と異常歩行② 8. 肩甲帯、肩の機能① 9. 肩甲帯、肩の機能② 10 肘、前腕の機能 11 手と手指の機能 12 骨盤と股関節の機能 13 膝関節の機能 14 足部の機能 15 試験解説	
【テキスト】 テキスト:「リハビリテーション医学 第4版」東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「解剖学 第2版」東洋療法学校協会編(医歯薬出版) その他: 必要に応じてプリントを使用する。			
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の実技試験において評価を行う。			
【授業実施上の留意点】 特になし			

## 講義要綱

【授業科目名】人体の構造と機能VI(生理学Ⅱ)	【分野】専門基礎	【学年】2年	【学期】前・後期
【学科】専科	【講師名】小林 仁	【授業コマ数】30	【授業時間数】60 【単位数】2
<b>【一般目標:GIO】</b> 人体の80年以上に及ぶ生命活動を、その恒常性維持機能と共に説明でき、かつ次世代にどのように受け継がれるか、述べる事が出来る。また、次年度以降の恒常性維持機能の破綻である疾病に対する学習を控えて認知的領域および情意的領域におけるレディネスを獲得することが目標である。			
<b>【行動目標・到達目標:SBOs】</b> 生理学の定義を述べる事が出来る。 人体の恒常性に対する知識を述べる事が出来る。 人体の生命活動に対して医療倫理を踏まえた科学的な考察が出来る。 はり師・きゅう師国家試験に対応した知識を述べる事が出来る。			
<b>【 授 業 計 画 】</b>			
< 前 期 >		< 後 期 >	
1. 第8章 排泄(腎臓の構造と働き) 2. 第8章 排泄(尿の組成・腎臓による体液調節) 3. 第8章 排泄(蓄尿と排尿) 4. 第9章 内分泌(ホルモンの特徴) 5. 第9章 内分泌(各内分泌腺の働き①) 6. 第9章 内分泌(各内分泌腺の働き②) 7. 第10章 生殖・成長と老化 8. 第11章 神経(構造と働き・伝導と興奮①) 9. 第11章 神経(構造と働き・伝導と興奮②) 10. 第11章 神経(末梢神経) 11. 第11章 神経(中枢神経①) 12. 第11章 神経(中枢神経②) 13. 第11章 神経(中枢神経③) 14. 第11章 神経(中枢神経④) 15. 試験解説および総復習		1. 第12章 内臓の自律神経性調節(自律神経系の特徴) 2. 第12章 内臓の自律神経性調節(自律神経系の神経伝達物質と受容体) 3. 第12章 内臓の自律神経性調節(自律神経系の中樞・自律神経反射) 4. 第13章 筋(構造と働き・筋収縮の仕組み) 5. 第13章 筋(エネルギー供給・心筋平滑筋) 6. 第14章 運動(骨格筋の神経支配) 7. 第14章 運動(運動の調節①) 8. 第14章 運動(運動の調節②) 9. 第14章 運動(運動の調節③) 10. 第15章 感覚(体性感覚・内臓感覚) 11. 第15章 感覚(痛覚・特殊感覚) 12. 第16章 生体の防御機構(免疫・組織と因子) 13. 第16章 生体の防御機構(免疫反応の分類・炎症とアレルギー) 14. 第17章 ホメオスタシスと生体リズム 15. 試験解説および総復習	
<b>【テキストなど】</b> テキスト:「生理学」第2版、東洋療法学校協会監修、医歯薬出版 参考書:授業内で適宜紹介			
<b>【成績評価方法】</b> 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行なう。			
<b>【授業実施上の留意点】</b> 授業は講義形式にて行う。教科書を通読、理解する。板書を中心として時に補足プリントを配布する。プリントは当日のみの配布になる。欠席者分の確保の必要があれば、クラス自治で対応する事。復習が大切です。時間をかけて行うように。			

## 講 義 要 綱

【授業科目名】 病理学概論	【分野】 専門基礎	【学年】 2年	【学期】 前・後期
【学科】 専科 【講師名】 梶間美智子	【授業コマ数】 30	【授業時間数】 60	【単位数】 2
<b>【一般目標：GIO】</b> 病気の原因と機序および結果に関する基礎的な知識を学び、病態の分類や様々な疾患に対する病理学的な理解を深める。			
<b>【行動目標・到着目標：SBO】</b> 病理学用語を正しく理解し、疾病の成り立ちとその回復について学び、またそれを臨床の場面で使うことが出来る。			
<b>【 授 業 計 画 】</b>			
〈 前 期 〉		〈 後 期 〉	
1. 病理学とは、あはき国試での位置づけ 2. 疾病についての基本的考え方、病因① 3. 病因② 4. 病因③ 5. 病因④ 6. 病因⑤ 7. 病因⑥ 8. 循環障害① 9. 循環障害② 10. 循環障害③ 11. 循環障害④ 12. 退行性病変① 13. 退行性病変② 14. 退行性病変③ 15. 試験解説および前期のまとめ		1. 進行性病変① 2. 進行性病変② 3. 進行性病変③ 4. 炎症① 5. 炎症② 6. 炎症③ 7. 腫瘍① 8. 腫瘍② 9. 腫瘍③ 10. 腫瘍④ 11. 免疫異常とアレルギー① 12. 免疫異常とアレルギー② 13. 先天性異常① 14. 先天性異常② 15. 試験解説および後期のまとめ	
<b>【テキストおよび使用教材】</b> テキスト：『病理学概論』 社団法人 東洋療法学校協会編（医歯薬出版） その他：配布プリント			
<b>【成績評価方法】</b> 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行う。			
<b>【授業実施上の留意点】</b> 教科書とプリントを併用して授業を進めていく。			

## 講義要綱

【授業科目名】臨床医学総論 I	【分野】専門基礎	【学年】2年	【学期】前・後期
【学科】専科	【講師名】坂口雅明	【授業コマ数】30	【授業時間数】60
【単位数】2			
【一般目標:GIO】 臨床で遭遇する疾患の基本原理を理解し、適切な問診、診察、検査を行い、正しく病態を把握できるよう、医学的知識ならびに技能について習得する。			
【行動目標・到達目標:SBOs】 実際の診療の場において問診により患者の訴えを的確に聴取することができるように理解を深める。 実際の診療の場において身体の全身、局所の診察ができるように検査も含め知識を深める。			
【 授 業 計 画 】			
< 前 期 >		< 後 期 >	
1. 診察の概要(意義、注意、進め方、記録) 2. 問診について(患者像、主訴、現病歴) 3. 問診について (既往歴、家族歴、問診上の注意) 4. 身体の診察(視診、触診) 5. 身体の診察(打診、聴診) 6. 身体計測、バイタルサイン(体温・脈拍) 7. 全身の診察法(顔貌、歩行、体格) 8. 全身の診察法(栄養、精神状態) 9. 全身の診察法(皮膚粘膜、発声会話) 10. 全身の診察法(生命徴候、リンパ節) 11. 局所の診察法(頭部、顔面、頸部) 12. 局所の診察法(目、耳、鼻) 13. 局所の診察法(口、舌、歯、咽頭、喉頭) 14. まとめ 15. 試験解説および総復習		1. 局所の診察法(胸部、腹部) 2. 局所の診察法(背部) 3. 局所の診察法(直腸、肛門、骨盤内臓器) 4. 局所の診察法(上肢、爪) 5. 局所の診察法(下肢、筋肉、骨・関節) 6. 局所の診察法(知覚検査) 7. 局所の診察法(反射検査) 8. 局所の診察法(脳神経系検査) 9. 局所の診察法(運動機能検査) 10. 局所の診察法(不随意運動①) 11. 局所の診察法(不随意運動②) 12. 局所の診察法 13. その他の診察(スポーツ外傷、救急時) 14. その他の診察(妊産婦、乳幼児、老人) 15. 試験解説および総復習	
【テキスト】 テキスト:(社)東洋療法学校協会「臨床医学総論」(医歯薬出版) 参考書:授業で使用した参考書は授業内においてそのつど公表します。			
【成績評価方法】 普段の出席状況、授業態度、期末試験にて評価する。			
【授業実施上の留意点】 小テストを実施することも多く、欠かさず授業に参加する姿勢が必要となる。 授業中に配布するプリントを中心に授業を進める。			

## 講義要綱

【授業科目名】臨床医学各論Ⅰ		【分野】専門基礎	【学年】2年	【学期】前・後期
【学科】専科	【講師名】谷 直樹	【授業コマ数】30	【授業時間数】60	【単位数】2
【一般目標:GIO】 臨床において遭遇する可能性のある疾患について、適切な鑑別・評価が行え、あはき師として適切な判断とを行い、かつ患者に正しく適切な情報を提供し、施術者と患者がその行動理由を共有出来る。				
【行動目標・到達目標:SBOs】 下記の疾患について概念・病態生理と主症状および特徴的検査法や治療について述べる事ができる。 下記の疾患についてあはき師として臨床上の判断を行うにあたりその留意すべき点を判断できる。 疾患に対する社会的背景等を理解し、疾病を有する者に対し適切な言葉を選択して表現することができる。				
【 授 業 計 画 】				
< 前 期 >		< 後 期 >		
1 第1章 感染症	総論・細菌感染症	1 第2章 消化器疾患	口腔・食道・胃・十二指腸疾患	
2 第1章 感染症	細菌感染症	2 第2章 消化器疾患	胃・十二指腸疾患	
3 第1章 感染症	ウイルス感染症	3 第2章 消化器疾患	腸疾患	
4 第1章 感染症	性感染症	4 第2章 消化器疾患	腸疾患・腹膜疾患	
5 第9章 循環器疾患	心臓疾患①	5 第3章 肝・胆・膵疾患	肝臓疾患①	
6 第9章 循環器疾患	心臓疾患②	6 第3章 肝・胆・膵疾患	肝臓疾患②	
7 第9章 循環器疾患	冠動脈疾患	7 第3章 肝・胆・膵疾患	肝臓疾患③	
8 第9章 循環器疾患	動脈疾患	8 第3章 肝・胆・膵疾患	胆道疾患・膵臓疾患	
9 第9章 循環器疾患	血圧異常	9 第3章 肝・胆・膵疾患	膵臓疾患	
10 第10章 血液造血器疾患	赤血球疾患①	10 第4章 呼吸器疾患	感染性呼吸器疾患①	
11 第10章 血液造血器疾患	赤血球疾患②	11 第4章 呼吸器疾患	感染性呼吸器疾患②	
12 第10章 血液造血器疾患	白血球疾患	12 第4章 呼吸器疾患	閉塞性呼吸器疾患	
13 第10章 血液造血器疾患	リンパ網内系疾患	13 第4章 呼吸器疾患	拘束性・その他の呼吸器疾患	
14 第10章 血液造血器疾患	出血性素因	14 第5章 腎・尿器疾患	原発性糸球体腎炎・腎不全	
15 試験問題の解説および総復習		15 試験問題の解説および総復習		
【テキスト】 テキスト:「臨床医学各論 第2版」東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 参考書:授業で使用した参考書は授業内においてそのつど公表します。				
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行う。				
【授業実施上の留意点】 授業は講義形式にて行う。教科書の通読を基本とし、教科書を通読・理解するにあたり必要な医学用語・知識を解説し、各疾患を理解する為の手がかりとする授業が目標とする。 基礎医学に関する知識が必要となる為、知識に乏しい者はあらかじめ予習をしておくこと。				

## 講 義 要 綱

【授業科目名】 衛生学・公衆衛生学	【分野】 専門基礎	【学年】 2年	【学期】 前・後期
【学科】 専科	【講師名】 梶間美智子	【授業コマ数】 30	【授業時間数】 60
【単位数】 2			
【一般目標：GIO】 衛生学・公衆衛生学は、人間の生存に影響を及ぼすさまざまな関連要因をふまえ、健康の保持（維持）・増進、予防医学の重要性を学ぶ。			
【行動目標・到着目標：SBO】 人間生活に影響を及ぼす様々な関連要因を理解し、鍼灸師として、健康の保持・増進、疾病予防について助言が出来るようになること、またこれらが展開される保健福祉の法制・倫理を理解し、実践において活かせるようになる。			
【 授 業 計 画 】			
〈 前 期 〉		〈 後 期 〉	
1. 衛生学・公衆衛生学の意義、国試での位置づけ	2. 健康の概要・国際保健	3. 予防医学	4. 衛生行政
5. 食品と栄養	6. 食品と疾病/食中毒①	7. 食中毒②/運動と健康	8. 環境、物理学的環境要因
9. 化学的環境要因	10. 生物学的環境要因/環境問題①	11. 環境問題②	12. 地球規模の環境問題
13. 労働環境と健康、労働災害対策	14. 業務上疾病とその対策	15. 試験総評と総復習	
1. 精神保健の現状	2. 精神の健康と精神障害	3. 母子保健の意義	4. 主な母子保健政策
5. 生活習慣病の特徴と対策	6. 老人保健福祉対策	7. 感染症の意義と種類	8. 感染症の発生要因
9. 感染症予防の原則、免疫	10. 消毒法の一般	11. 消毒の種類①	12. 消毒の種類②/消毒の実際
13. 疫学概念と意義、疾病の頻度と測定	14. 主な保健統計と意義、指標	15. 試験総評と総復習	
【テキストおよび使用教材】 テキスト：『衛生学・公衆衛生学 第2版』 社団法人 東洋療法学校協会編（医歯薬出版） その他：配布プリント			
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行う。			
【授業実施上の留意点】 ・教科書とプリントを併用し、授業を進めていく。・小テストを行うこともある（事前告知有）			

## 講義要綱

【授業科目名】基礎学Ⅲ(配穴処方学)	【分野】専門	【学年】2年	【学期】前期
【学科】専科	【講師名】小高直幹	【授業コマ数】15	【授業時間数】30
【一般目標:GIO】			
<p>弁証に対する治法に基づく配穴処方を実践できる。</p>			
【行動目標・到達目標:SBOs】			
<p>腧穴の性質・特性を理解できる。          基本的な配穴・組合せを説明できる。          弁証から配穴を導き出すことができる。</p>			
【 授 業 計 画 】			
< 前 期 >			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 論治について、治則・治法について</li> <li>2. 標本同治、標治穴と本治穴</li> <li>3. 循経穴</li> <li>4. 五俞穴、五行穴、六十八難、六十九難、七十五難</li> <li>5. 八脈交会穴、八会穴</li> <li>6. 補瀉法について</li> <li>7. 原絡配穴、原合配穴</li> <li>8. 俞原配穴、俞募配穴</li> <li>9. 症例検討</li> <li>10. 症候別治療 不眠</li> <li>11. 症候別治療 咳嗽</li> <li>12. 症候別治療 便秘・食欲不振</li> <li>13. 症候別治療 むくみ・冷え</li> <li>14. 症候別治療 頭痛</li> <li>15. 試験解説・まとめ</li> </ol>			
【テキスト】			
<p>テキスト:「新版 経絡経穴概論」(医道の日本社)「新版 東洋医学概論」(医道の日本社)          参考書:授業で使用した参考書は授業内においてそのつど公表します。</p>			
【成績評価方法】			
<p>所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行う。</p>			
【授業実施上の留意点】			
<p>授業は講義または演習形式にて行う。          演習において、患者を想定し適切な態度で臨むこと。</p>			



## 講義要綱

【授業科目名】基礎学Ⅲ(解剖経穴学)	【分野】専門	【学年】2年	【学期】後期
【学科】専科	【講師名】上杉健二	【授業コマ数】15	【授業時間数】30
【単位数】1			
【一般目標:GIO】 解剖と経穴の関係を理解し、臨床で遭遇する諸種の疾患に対して治療穴を的確に選択、取穴できるようになることを目標とする。 国家試験中の解剖経穴学的見地から作成された問題に対して適切な解答を導き出すために、問題の出題意義を分析し理解できるようになることを目標とする。			
【行動目標・到達目標:SBOs】 ・骨・筋の体表解剖、神経・血管の走行を把握し、経穴との関係を理解する。 ・解剖学的な知識を応用した国家試験レベルの問題に正確に解答することができる。			
【 授 業 計 画 】			
< 前 期 >		< 後 期 >	
		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 筋肉と経穴①     &lt;体幹部の筋肉&gt;</li> <li>2. 筋肉と経穴②     &lt;体幹部の筋肉&gt;</li> <li>3. 上肢陰経の経穴     &lt;肺経&gt;</li> <li>4. 上肢陰経の筋肉と経穴     &lt;心包経、心経&gt;</li> <li>5. 上肢陽経の筋肉と経穴     &lt;小腸経、三焦経&gt;</li> <li>6. 上肢陽経の筋肉と経穴     &lt;大腸経&gt;</li> <li>7. 上肢の神経と経穴     &lt;上肢の神経&gt;</li> <li>8. 下腿陰経の筋肉と経穴     &lt;肝経、脾経、腎経&gt;</li> <li>9. 下腿陽経の筋肉と経穴     &lt;胃経、胆経、膀胱経&gt;</li> <li>10. 大腿の筋肉と経穴</li> <li>11. 下肢の神経と経穴</li> <li>12. 下肢の血管と経穴</li> <li>13. 動脈拍動部と経穴     &lt;動脈拍動部、特殊な部位&gt;</li> <li>14. 顔面の経穴     &lt;顔面の筋肉、三叉神経領域の経穴&gt;</li> <li>15. 試験問題の解説及び総復習</li> </ol>	
【テキスト】 配布プリント 「新版 経絡経穴概論 第2版」東洋療法学校協会編			
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行う。			
【授業実施上の留意点】 パソコン、プロジェクターを使用するので準備すること。 各自色鉛筆、はさみ、のりを持参すること。			

## 講義要綱

【授業科目名】基礎学Ⅳ(鍼灸理論Ⅰ)	【分野】専門	【学年】2年	【学期】後期
【学科】専科	【講師名】湯浅陽介	【授業コマ数】15	【授業時間数】30
【単位数】1			
【一般目標:GIO】 鍼灸の道具、施術の歴史的変遷を知る。鍼灸施術の有害事象と対処を理解する。 施術の意義、作用及び治効理論などについて学ぶ。			
【行動目標・到達目標:SBOs】 鍼灸の道具、術式について説明できる。施術中に起こりうる有害事象に対し、予防、適切な対処ができるようになる。 鍼灸の治効機序について、生理学的な見地から説明できる。			
【 授 業 計 画 】			
< 前 期 >	< 後 期 >		
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第1章 概論、第2章 鍼の基礎知識</li> <li>2. 第3章 刺鍼の方式と術式</li> <li>3. 第4章 特殊鍼法、第5章 灸の基礎知識</li> <li>4. 第6章 灸術の種類、第7章 鍼灸の臨床応用①</li> <li>5. 第7章 鍼灸の臨床応用②</li> <li>6. 第8章 リスク管理 リスク管理の基本</li> <li>7. 鍼療法の過誤と副作用</li> <li>8. 灸療法の過誤と副作用、感染症対策</li> <li>9. 第9章 鍼灸治効の基礎 痛み感覚の受容と伝導①</li> <li>10. 痛み感覚の受容と伝導②、温度感覚の受容と伝導</li> <li>11. 触圧刺激の受容と伝達</li> <li>12. 筋の伸張刺激および筋の振動の受容と伝導</li> <li>13. 鍼灸刺激と反射①</li> <li>14. 鍼灸刺激と反射②</li> <li>15. 試験解説および総復習</li> </ol>		
【テキスト】 テキスト:「はりきゅう理論」 東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 資料 :授業中の配布プリント			
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験により評価を行う。			
【授業実施上の留意点】 授業は講義形式にて行う。教科書、配布資料の通読を基本とする。授業内容を理解するにあたり、神経生理学的知識をはじめ基礎的な医学知識が必要となる為、知識に乏しい者はその都度該当教科の復習を要する。			

## 講義要綱

【授業科目名】臨床学Ⅱ(臨床基礎理論Ⅱ)	【分野】専門	【学年】2年	【学期】前期
【学科】専科	【講師名】小高直幹	【授業コマ数】45	【授業時間数】90
【一般目標:GIO】 鍼灸臨床において遭遇しやすい症候・疾患について、適切な鑑別・評価を行なうことの出来る能力 および患者に対する態度を身に付ける。			
【行動目標・到達目標:SBOs】 各症候を呈する疾患とその鑑別に必要な問診・診察法について理解する。 症候・疾患に対し必要な診察法を選択・実施でき、その陽性所見および意義について判断出来る。 鍼灸臨床における一連の流れを実践し、患者に対する適切な態度を身に付ける。			
【 授 業 計 画 】			
<前 期> 1. ガイダンス 2. 膝関節痛について① 3. 膝関節痛について② 4. 膝関節痛について③ 5. 膝関節痛の問診 6. 膝関節痛の診察法① 7. 膝関節痛の診察法② 8. 腰痛について① 9. 腰痛について② 10. 腰痛について③ 11. 腰痛の問診 12. 腰痛の診察法① 13. 腰痛の診察法② 14. 坐骨神経痛(下肢神経痛)について① 15. 坐骨神経痛(下肢神経痛)について② 16. 坐骨神経痛(下肢神経痛)について③ 17. 坐骨神経痛(下肢神経痛)の問診 18. 坐骨神経痛(下肢神経痛)の身体診察法① 19. 坐骨神経痛(下肢神経痛)の身体診察法② 20. 坐骨神経痛(下肢神経痛)の身体診察法③ 21. 頸・上肢痛について① 22. 頸・上肢痛について② 23. 頸・上肢痛の問診 24. 頸・上肢痛の身体診察法① 25. 頸・上肢痛の身体診察法② 26. 肩痛について① 27. 肩痛について② 28. 肩痛の問診 29. 肩痛の身体診察法① 30. 肩痛の身体診察法②		<前 期> 31. 症例検討① 32. 症例検討② 33. 身体診察復習・練習 34. 身体診察練習① 35. 身体診察練習② 36. 身体診察練習③ 37. 模擬実習① 38. 模擬実習② 39. 模擬実習ふりかえり 40. 筆記試験解説およびまとめ 41. 実技試験① 42. 実技試験② 43. 実技試験③ 44. 実技試験総評 45. まとめ	
【テキスト】 テキスト:「鍼灸臨床 問診・診察ハンドブック」 出端昭男著 (医道の日本社) 参考書:授業で使用した参考書は授業内においてそのつど公表します。			
【成績評価方法】 授業内での課題、所定の出席時間を満たした者に対し行う筆記試験および実技試験によって評価を行う。			
【授業実施上の留意点】 授業は講義または演習形式にて行う。(演習の際には実技室を使用し、白衣着用の事) 講義はテキストの通読を基本とし、各症候・疾患について理解するにあたり必要な用語・知識について解説する。 演習において、患者を想定し適切な態度で臨むこと。			

## 講義要綱

【授業科目名】臨床学Ⅲ(中医診察学・中医弁証学)	【分野】専門	【学年】2年	【学期】前期
【学科】専科	【講師名】小高直幹	【授業コマ数】30	【授業時間数】60
【一般目標:GIO】			
弁証論治を理解する。			
【行動目標・到達目標:SBOs】			
四診について理解し、得られた情報を分析できる。			
各弁証の特徴を理解し、病証を判断することができる。			
治則・治法を理解し、弁証に対する論治を組み立てることができる。			
【 授 業 計 画 】			
< 前 期 >		< 前 期 >	
1. 総論	1. 弁証論治総論		
2. 四診について	2. 弁証①		
3. 望診	3. 弁証②		
4. 聞診	4. 弁証③		
5. 問診①	5. 弁証④		
6. 問診②	6. 論治①		
7. 問診③	7. 論治②		
8. 切診①	8. 治則		
9. 切診②	9. 治法①		
10. 切診③	10. 治法②		
11. 四診演習①	11. 症例検討①		
12. 四診演習②	12. 症例検討②		
13. 四診・弁証	13. 症例検討③		
14. まとめ	14. まとめ		
15. 試験解説・まとめ	15. 試験解説・まとめ		
【テキスト】			
テキスト:「新版 東洋医学概論」(医道の日本社)			
参考書:授業で使用した参考書は授業内においてそのつど公表します。			
【成績評価方法】			
所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行う。			
【授業実施上の留意点】			
授業は講義または演習形式にて行う。			
演習において、患者を想定し適切な態度で臨むこと。			

## 講義要綱

【授業科目名】実習Ⅴ(鍼灸実技【経絡治療Ⅱ】)	【分野】専門	【学年】2年	【学期】前期
【学科】専科	【講師名】仙田 昌子	【授業コマ数】15	【授業時間数】30
【単位数】1			
【一般目標:GIO】 経絡治療の基本(1年次)を確認し、臨床実習などで実際に経絡治療の臨床が行えることを目標とする。特に、扱う頻度の高い疾患について病理を理解し、根拠をもった診断法と治療法を身につける。			
【行動目標・到達目標:SBO】 経絡治療の基本を、①手順、②選経選穴、③補瀉法、④本治法、⑤標治法と段階を分け理解徹底する。特に選経においては経脈・臓腑病証の鑑別を行う。診察と証立ては、脈位脈差診によって迷いなく基本四証を導くことを徹底し、脈状を参考に「病理」を考慮した寒熱証を導くことを目標にする。これらは「病症に至るメカニズム」を理解した上で、「病理病証」を理解する必要があるため各回の冒頭に随時説明し、残りを実技実習と			
【 授 業 計 画 】			
<前期>		<後期>	
1: 陰陽五行説による体質診察 肩こり(一年次復習) 2: 陰陽五行説による体質診察 肩こり(一年次復習) 3: 陰陽五行説による体質診察 五十肩①(選経) 4: 経絡と病証① 五十肩②(選経) 5: 経絡と病証② 腰痛① 6: 臓腑と病証 腰痛② 7: 高血圧①  8: 高血圧②  9: 冷え症①  10: 冷え症②  11: 病証に対する治療  12: 病証に対する治療  13: 実技試験  14: 総合実技①  15: 実技試験の総評 総合実技②			
【テキスト】 『日本鍼灸医学』(経絡治療・基礎編)経絡治療学会編纂、『経絡経穴概論』等の経穴書 ※参考書として『日本鍼灸医学』(経絡治療・臨床編)の利用を勧める。			
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たし、各回の課題について評価を得た者に対し、学期末の実技試験によって評価を行う。			
【授業実施上の留意点】 二人一組で、患者役と施術者役になって練習。順次、役割を交代する。 施術者役はカルテを記入し、その都度提出する。			

## 講義要綱

【授業科目名】実習VI(鍼灸実技 中医学Ⅰ)	【分野】専門	【学年】2年	【学期】前期
【学科】専科	【講師名】小高直幹	【授業コマ数】15	【授業時間数】30
【単位数】1			
【一般目標:GIO】			
中国鍼を用いた刺鍼およびその他療法の技能を習得し、活用できる。			
【行動目標・到達目標:SBOs】			
中国鍼について理解し、身体各部に刺鍼することができる。 中国鍼を用いた補瀉手技を実施することができる。 特殊療法について理解し、実施することができる。			
【 授 業 計 画 】			
< 前 期 >			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス、中国鍼について</li> <li>2. 下肢への刺鍼</li> <li>3. 上肢への刺鍼</li> <li>4. 腰背部への刺鍼、補瀉法</li> <li>5. 腹部への刺鍼</li> <li>6. 胸部への刺鍼</li> <li>7. 肩背部への刺鍼</li> <li>8. 頸部への刺鍼</li> <li>9. 頭部への刺鍼</li> <li>10. 吸角</li> <li>11. 灸頭鍼</li> <li>12. 復習・練習</li> <li>13. 実技試験①</li> <li>14. 実技試験②</li> <li>15. 実技試験総評</li> </ol>			
【テキスト】			
授業時にプリントを配布。 参考書:授業で使用した参考書は授業内においてそのつど公表します。			
【成績評価方法】			
所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の実技試験において評価を行う。			
【授業実施上の留意点】			
実習を行なう際には、患者を想定し、適切な態度で臨むこと。 授業は実技室を使用し、白衣着用の事。			

## 講義要綱

【授業科目名】実習Ⅶ(臨床基礎実技)	【分野】専門	【学年】2年	【学期】後期
【学科】専科	【講師名】小高、鈴木、殿村	【授業コマ数】30	【授業時間数】60
【単位数】2			
【一般目標:GIO】 患者に対する臨床実践を通して、臨床に携わる者としての態度・習慣、並びに治療法(現代医学的鍼灸治療、経絡治療、中医学)を理解し、実践できる。			
【行動目標・到達目標:SBOs】 < 態度・習慣 > 自己の問題点を抽出し、解決することが出来る。また患者とのコミュニケーションをとり信頼関係を築くことが出来る。 < 情報収集 > 1) 医療面接所見をもとに、患者の抱える問題点に対する身体診察法を実践できる。 2) 四診法により、患者を東洋医学的観点から捉えることが出来る。 3) 患者の抱える問題点に対する治療の適否を判断し、治療計画を立案することが出来る。 < 治療へのアプローチ > 1) 治療に際し患者からインフォームド・コンセントを得ることが出来る。 2) 安全性、消毒・清潔操作に配慮し、治療することが出来る。 3) 治療効果を判定することが出来る。 4) 治療中のアクシデントに適切に対応することが出来る。 5) 治療計画に基づき、治療穴および治療部位を触知出来る。 6) 治療計画に基づいた、刺鍼・施灸することが出来る。 < 診療録作成 > 診療録を記載できる。			
【 授 業 計 画 】			
< 後 期 >			
1. 実習ガイダンス(実施内容の説明など) 2. 実習ガイダンス(現代医学的鍼灸治療における実習内容の説明) 3. 現代医学的鍼灸治療(初診のロールプレイング①) 4. 現代医学的鍼灸治療(初診のロールプレイング②) 5. 現代医学的鍼灸治療(初診模擬実習①:学生同士で施術者と患者役) 6. 現代医学的鍼灸治療(初診模擬実習②:施術者と患者役を交代) 7. 現代医学的鍼灸治療(初診模擬実習③:初診模擬実習①と同じ組合せで実施) 8. 現代医学的鍼灸治療(初診模擬実習④:初診模擬実習②と同じ組合せで実施) 9. 現代医学的鍼灸治療(初診:教員評価①) 10. 現代医学的鍼灸治療(初診:教員評価②) 11. 現代医学的鍼灸治療(初診模擬実習⑤:教員評価を基に学生同士で施術者と患者役、組む相手を変える) 12. 現代医学的鍼灸治療(初診模擬実習⑥:教員評価を基に学生同士で施術者と患者役を交代する) 13. 実習ガイダンス(中医学における実習内容の説明など) 14. 中医学(不眠 デモンストレーションと解説) 15. 中医学(咳嗽 デモンストレーションと解説) 16. 中医学(便秘・食欲不振 デモンストレーションと解説) 17. 中医学(むくみ・冷え デモンストレーションと解説) 18. 中医学(頭痛 デモンストレーションと解説) 19. 中医学(初診のロールプレイング①) 20. 中医学(初診のロールプレイング②) 21. 中医学 総括 22. 実習ガイダンス(経絡治療における実習内容の説明など) 23. 経絡治療(初診模擬実習①:学生同士で施術者と患者役) 24. 経絡治療(初診模擬実習②:交代する) 25. 経絡治療(初診模擬実習③:相手を変える) 26. 経絡治療(初診模擬実習④:交代する) 27. 経絡治療(再診模擬実習:③と④の組合せで、時間(35分)で交代) 28. 経絡治療 総括 29. 臨床実習前施術実技試験 30. 総括			
【テキスト】 「問診・診察ハンドブック」(出端昭男 医道の日本社)、「中医鍼灸学総論」(浅川要 東京医療福祉専門学校)、 「日本鍼灸医学<経絡治療・基礎編>」(経絡治療学会編纂) 「東洋医学臨床論<東洋医学的な考え方>サブテキスト」東京医療福祉専門学校 配布資料:「臨床基礎実技実施要領」、「実習マニュアル」			
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、臨床実習前施術実技試験にて評価する。			
【授業実施上の留意点】 ガイダンスおよびまとめは教室で、模擬実習は実習室、実習は臨床実習室で実施。 授業の実施の日程など予め掲示するので確認しておくこと。 実習においては白衣着用、筆記用具、角度計、打腱器、ピンセット、灸点ペンなどを忘れないこと。 テキスト・配布資料の内容を熟知し実習に支障のないように注意すること。			

## 講義要綱

【授業科目名】臨床実習 I	【分野】専門	【学年】2年	【学期】前・後期
【学科】専科	【講師名】臨床実習指導者	【授業コマ数】23	【授業時間数】45
【単位数】1			
【一般目標:GIO】 見学実習を通し医療人としての適切な倫理観と態度を身につけ、また安心・安全な”はき”施術が出来るようにその基礎について学ぶ。			
【行動目標・到達目標:SBOs】 施術所で実際に行われている鍼灸施術と受付業務などの施術所内業務を見学し、患者とのコミュニケーションの取り方・面接所見及び身体診察法・施術計画・施術方法など臨床に必要な知識や技術を知ることができる。			
【 授 業 計 画 】			
< 前・後期 >		< 後 期 >	
		1回目	見学実習①
		2回目	見学実習②
		3回目	見学実習③
		4回目	見学実習④
		5回目	見学実習⑤
		6回目	見学実習⑥
		7回目	見学実習⑦
		8回目	見学実習⑧
		9回目	見学実習⑨
		10回目	見学実習⑩
		11回目	見学実習⑪
		12回目	見学実習⑫
		13回目	見学実習⑬
		14回目	見学実習⑭
		15回目	見学実習⑮
		16回目	見学実習⑯
		17回目	見学実習⑰
		18回目	見学実習⑱
		19回目	見学実習⑲
		20回目	見学実習⑳
		21回目	見学実習㉑
		22回目	見学実習㉒
		23回目	見学実習㉓
【テキスト】 プリント配布			
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、指導者が評価する「臨床実習評価」と生徒が提出する「実習ケースノート」と「感想文」を担当教員が総合的に評価する。			
【授業実施上の留意点】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・白衣着用。ネームプレートを忘れないようにすること。</li> <li>・実習は外部の施術所で行うので、実習先の指導者の指示に従うこと。</li> <li>・医療人および社会人として持つ常識を踏まえて臨むこと。</li> <li>・時間厳守</li> <li>・守秘義務を理解し遵守すること。</li> <li>・体調不良などによる欠席や遅刻および早退などしないように健康管理に留意すること。</li> </ul>			



## 講義要綱

【授業科目名】臨床総合Ⅱ(鍼灸実技「現代治療学Ⅰ」)		【分野】専門		【学年】2年	【学期】前期
【学科】専科	【講師名】手島 梢	【授業コマ数】15	【授業時間数】30	【単位数】1	
【一般目標:GIO】 ステンレス鍼を用い臨床で多く遭遇する6疾患(腰痛、坐骨神経痛、項背痛、肩関節痛、膝関節痛、頸腕痛)に対する現代医学的治療法を修得する。					
【行動目標・到達目標:SBOs】 各疾患について施術すべき治療穴を述べるができる。 上記治療穴の筋、支配神経を述べるができる。 筋の走行を理解でき、治療穴に交叉刺を行うことができる。 各疾患における共通治療穴の取穴および刺鍼ができる。					
【 授 業 計 画 】					
< 前 期 >			< 後 期 >		
1. 木下晴都先生の紹介、交叉刺、傍神経刺の説明 2. 腰部解説および取穴、交叉刺練習 3. 「坐骨神経痛」解説および取穴、刺鍼練習 4. 「項背痛」解説および取穴練習 5. 「項背痛」刺鍼練習 6. 「肩関節痛」解説および取穴練習 7. 「肩関節痛」刺鍼練習 8. 「膝関節痛」解説および取穴、刺鍼練習 9. 「頸腕痛」解説および取穴、刺鍼練習 10 総合練習① 11 総合練習② 12 実技試験① 13 実技試験② 14 実技試験③ 15 実技試験総評					
【テキスト】 授業時の配布プリント					
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の実技試験において評価を行う。					
【授業実施上の留意点】 ・刺鍼は指サック着用のこと。指サック装着を含めた刺鍼手順を身につけること。 ・交叉刺・傍神経刺は、筋の走行や支配神経等解剖の知識を必要とするため、 ・各疾患に対して関連のある筋、神経等解剖知識を予習しておくこと。					

## 講義要綱

【授業科目名】臨床総合Ⅲ(鍼灸実技 現代治療学Ⅱ)	【分野】専門	【学年】2年	【学期】後期
【学科】専科	【講師名】小高直幹	【授業コマ数】15	【授業時間数】30
【単位数】1			
【一般目標:GIO】 症候に対する施術部位を学び、目的となる組織に対して確実に実施出来る能力および態度を身に付ける。			
【行動目標・到達目標:SBOs】 症候に対する施術部位を理解し、施術対象となる組織を判断できる。 目的となる筋等の組織を触診にて確認出来る。 目的となる筋等の組織に対して確実に刺鍼・通電を行うことが出来る。			
【 授 業 計 画 】			
< 前 期 >		< 後 期 >	
		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 膝痛について、大腿二頭筋</li> <li>2. 半腱様筋</li> <li>3. 腰痛・腰下肢痛について、腰方形筋</li> <li>4. 梨状筋</li> <li>5. 頸・肩こりについて、僧帽筋</li> <li>6. 板状筋</li> <li>7. 肩甲挙筋</li> <li>8. 肩痛について、棘上筋・棘下筋</li> <li>9. 大円筋</li> <li>10. 小円筋</li> <li>11. 復習・練習</li> <li>12. 実技試験①</li> <li>13. 実技試験②</li> <li>14. 実技試験③</li> <li>15. 実技試験総評と総復習</li> </ol>	
【テキスト】 テキスト:「鍼通電療法テクニック」大島宣雄監修、山口真二郎著(医道の日本社) 参考書:授業で使用した参考書は授業内においてそのつど公表します。			
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たし、授業内で実施する課題をクリアした者に対し、実技試験において評価を行う。			
【授業実施上の留意点】 授業は実技室を使用し、白衣着用の事。 実習を行なう際には、患者を想定し、適切な態度で臨むこと。			